

## 鳥取大学における産業動物臨床教育の現状について

鳥取大学農学部獣医学科 獣医繁殖学教室 教授 菱沼 貢

鳥取大学農学部獣医学科では、伴侶動物、野生動物や産業動物を対象とした診療や臨床教育を行っています。平成22年の宮崎県における口蹄疫の発生そして平成23年の家畜伝染病予防法の改正を受けて、産業動物の臨床には防疫対策が不可欠となりました。今回は、動物医療センター教員の活動のひとつとして、産業動物の臨床教育の現状、特に低学年次学生への教育を紹介します。

「畜産学実習」は、獣医学科1年生を対象とした前期の科目で、家畜、特に牛の飼養管理に必要な基礎的技術の習得を目的としています。内容は、農学部附属フィールドサイエンスセンターで牛の取り扱い、体の各部位の名称確認とスケッチ、体尺測定および直腸検査を行います。学外では、鳥取県畜産振興協会 鳥取放牧場で放牧管理の実習を行い、鳥取県立農業大学校と鳥取県畜産試験場を見学します。家畜伝染病予防法の改正に対応した防疫対策の実践教育を行うため、平成24年度は獣医衛生学教室の教員も実習に参加し、学内での実習時にも防護服を着用しています。また、安全対策あつての実践教育なので、牛の保定の練習用に模型を使用し、次に実習牛を使用して牛を牽く練習をして、学外では牛の集団を扱っています。



**写真1** ロープの結び方の練習  
(牛の模型は私が作って、教室の学生が顔を描きました)

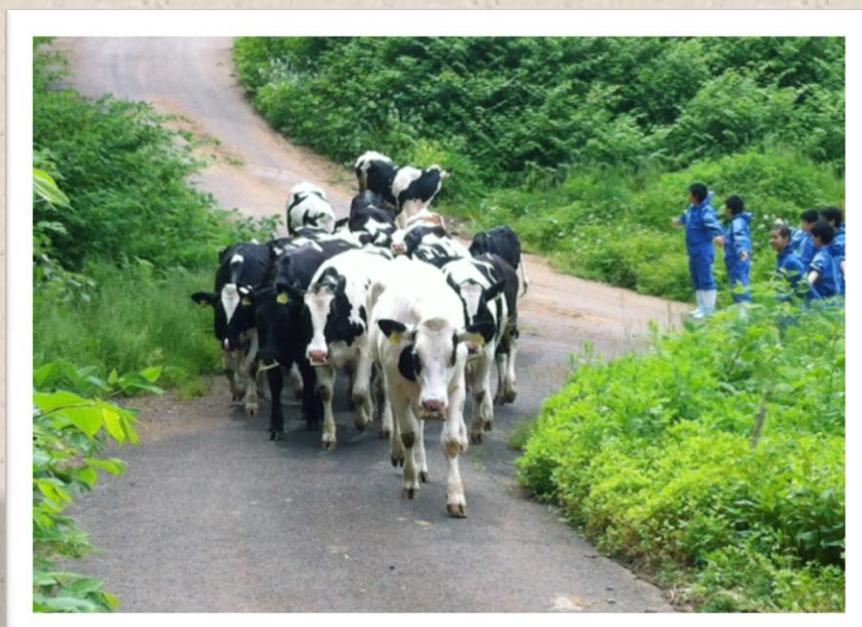


**写真2** 実習牛をロープで縛る

(当然、牛はおとなしくしてくれませんが)

**写真3** 実習牛を牽く

(牛が動いてくれるとは限りません)



**写真4**

鳥取放牧場における放牧  
区移動①

(牛を横道に行かせないように、手を広げて体でブロックしています)

## 写真5

### 鳥取放牧場における放牧区移動②

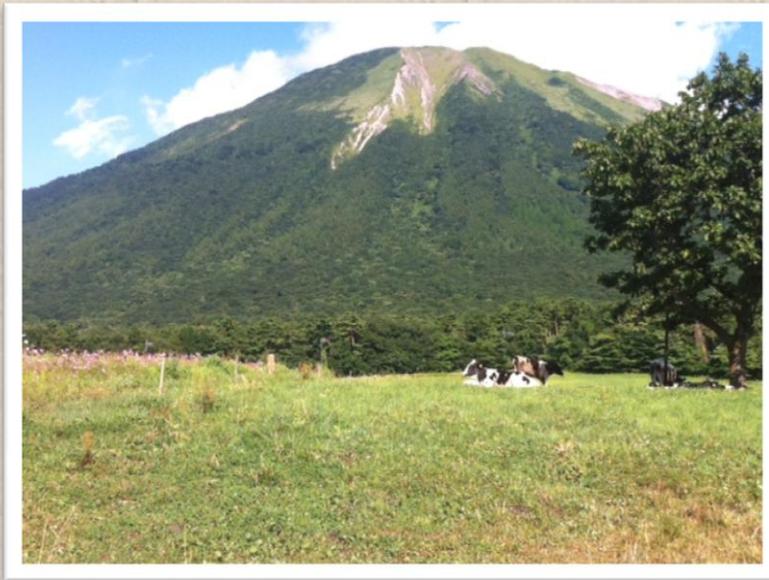
(牛遠方より来た。写真上部の風車の所から牛を移動しました)



また、今年度の「畜産学実習」では、平成25年度に設置される岐阜大学との共同獣医学科の1年次科目「大学教育導入演習Ⅰ」（＝学生移動型の合同授業）のシミュレーションとして、1年生と3年生（1年次に口蹄疫発生のため学外実習を実施できなかった学年です）の2学年、計71名を対象として大山共同研修所を使用して1泊2日で実習を実施しました。畜産試験場では2班構成（施設見学、講義）、大山放牧場では4班構成（施設説明、放牧管理、牛の保定、牛の直腸検査）で実習を行いました。鳥取大学から各施設への移動にはバス2台を使用しました。

8月上旬という暑い中での実習となり熱中症を心配していましたが、病気や怪我もなく無事に実習を終了しました。共同学部・学科・課程を設置する全国の獣医系大学の中で、今回は2クラス合同の学外実習を他大学に先行して実施したことになります。課題も多数見えてきましたので、来年度に向けて準備をしていくつもりです。

**写真6** 大山放牧場では牛の放牧管理について学びました



**写真7** 大山放牧場では牛の直腸検査も行いました

(牛のお尻に手を入れて、直腸の壁越しに生殖器等を触診します)



**写真8** 大山共同研修所では大学入門ゼミを実施し、2学年間の情報交換や繁殖学教室の紹介を行いました。